

マウスピース+球児=実力発揮?

格闘技でおなじみのマウスピースを夏の甲子園で着ける高校野球の選手がいる。打球や打撃に欠かせない体の軸の安定が得られるという。日本高校野球連盟が今春、新たなアイテムとして初めて認めた。大舞台で効果のほどは――。
(藤田絢子、古庄暢、菊地雅敏)

今春から認める 「体の軸安定」各校に広がる

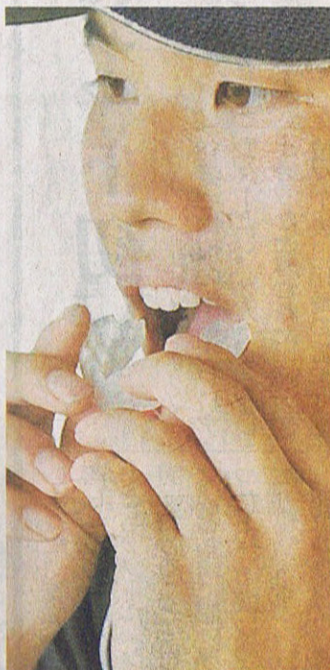
第92回 全国高校野球選手権大会

主催 朝日新聞社・日本高野連
後援 毎日新聞社
特別協力 阪神甲子園球場

聖光学院(福島)の左翼手の板倉皓太君(3年)は、16日の履正社(大阪)戦の前に、兵庫県伊丹市のグラウンドでマウスピースを手にした。「もう、これは欠かせないものになっています」

今春、業者から「無駄な力が抜け、本来の力を発揮できる」と薦められて購入。シリコン製で、無色でほんやりと透ける。初めて練習で着けて素振りをした瞬間、「今まで力んで歯を強く食いしばりすぎていたのが歯の感触で分かった」。

12日、広陵(広島)との初戦の7回2死一、三塁で板倉君はマウスピース



聖光学院の板倉皓太選手が使っているマウスピース＝兵庫県伊丹市の野球場

を着けて打席に立った。相手は今大会屈指の右腕・有原航平君(3年)。結局三振したが、追い込まれてから軽やかなバットさばきで4球ファウルで粘った。「以前の自分だったら力が入りすぎ、そこまで粘れなかった」

マウスピースは北京五輪女子ソフトボール日本代表の上野由岐子投手やプロ野球横浜ベイスターズの村田修一選手らが使い、高校球界でも注目された。学校側から「使っているか」との問い合わせが増えたため、日本高野連は3月、「白または透明なものに限り使用を認める」と用具に関する規定で明文化した。

メーカーのエポックエステート(東京)によると、奥歯のすり減りや口内の負傷を防ぐ上、かみ合わせが正常になることで頭の重量を支えるあごが安定。打球や打撃の際に体の軸がぶれないという。

同社は、着けたまま会話をしたり水を飲んだりできるよう前歯の部分を薄くした。歯科技士らが歯型を基に作るため、値段は市販品の約5倍の1個約1万円。それでも昨年各地の選手から計約5千個の注文を受け、格闘技用の約2千個を上回った。「しっかりと歯を食いしばることができ、足を強く踏み込める」と効用を語るのは、初戦で敗れた日川(山梨)の1番打者奥脇俊一君(3年)。山梨大会では苦手な左腕投手が登板する試合で着け、通算打率3割6分を記録した。

初戦の相手、西日本短大付(福岡)のエースは左腕だったが、奥脇君は「甲子園の大観衆に見られるのは恥ずかしい」とマウスピースを着けなかった。結果は4打数1安打。それでも「自分らしさは出せたと思う」と話した。